

プロローグ

衝撃!! 安保徹先生がご逝去された

一昨日、会長に久しぶりに電話をすると、

「凄い事が起こってる。安保先生が亡くなった。

暗殺の噂があるらしい。ホームページを見ろ」

私はボーゼンとしました。

まず、お歳暮を送っていたので、ストップできるならと、秘書に電話しました。

「12月6日なら、その頃についてますね」

と冷静な反応に、ちよつと落ち着き、弔電を依頼しました。

疑問と葛藤で頭がいっぱいになり、嘘だろう、と自分を納得させました。

しかし、涙は溢れてきます。
やっぱり本当かも知れない。

弔電の内容は、

安保先生の本に出会え、私は健康を手にしました。

自律神経と免疫の法則により、世の中に多大なる貢献をされました。

今は先生のご逝去に涙、涙ですが、志を受け継いで、

経営者、看護師のわたくしにできることを、精一杯やっていく所存です。

心よりお悔やみ申し上げます。

マスコミはなぜか取り上げないですが、安保先生はノーベル賞ものの研究を
された方です。

ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、「自律神経と免疫の法則」を世に送りだしました。

私のような医療従事者で、知らない人はいないと思います。

これは、現代医療にも警鐘を鳴らしています。

人間は自然児なのに、機械がすべて良くできる、と安易に考えている方々の胸に深く突き刺さります。

私もその1人でした。

先生のおかげで、盲目的な医療信仰をやめ、対話し選ぶ治療法の大切さを知りました。

ゴッホ、ピカソ、モネ、芥川龍之介、太宰治など芸術家や作家は、不遇な生涯でも亡くなった後に有名になっていますが、安保先生もその1人だと、以前から思っていました。

菌に衣着せぬ物言い、正直な方でした。

研究者ですから、長い時間をかけ導き出した現象や答えに、絶対なる信頼と自信をお持ちでした。

特に『医療が病をつくる』という本は先生の魂が入魂されている一冊です。

私はその本によって衝撃を受けると同時に健康も手にしました。

しかし、先生はこの本によって様々な人たちから怒りを買ったり、批判をされたようです。

なぜなら、それ以降に出された本はかなり控えめになっているからです。

専門家は自分のことを評価されたり、指摘されることを極端に嫌います。

しっかり本を読まずして、事の本質をつかまずして、人を弾劾する、大多数の人たちに出会っていました。

先生の心は、かなり辛かったらうと、推察致します。

とても正義感が強く、曲がったことが大嫌いだったと思います。

世の中は矛盾ばかりで、不条理なことがたくさんあります。

その不条理に、正面から間違いのない指摘をされています。

そのくらい、ストイックにご自身の仕事に打ち込んでこられているのだ、ということがよくわかります。

医療に限らず、どんな業界でも、間違っている、大多数でエネルギー（お金と名声）があるほうが発言力があります。

医療の当たり前と、病気が治る当たり前は違うのです。

ただ、医療が間違っているとやっているのではないので、関係者の方々、誤解しないでください。

安保先生は、それをよりわかりやすく、講演だけでなく、本にも残されておられます。

私も含め、自分自身の病気で苦しみ、安保先生に出会った方は皆さん、安保先生には足を向けて眠れないと思います。

心から感謝し、尊敬しています。